

# 中央大学学員会 中大技術士会支部

## ニュースレターvol.49

### 会員の皆様へ

明けましておめでとうございます。

昨年は新型コロナウイルス感染拡大により「緊急事態宣言」の発令、東京オリンピックの延期など、歴史上に残る問題が発生してしまいました。感染拡大は未だ落ち着く気配すらなく、医療機関は逼迫状態が続いています。

また自然災害も多い年で、大雨や夏期の最高気温の記録更新など、例年にない慌ただしい年となりました。「我々エンジニアは、この事態を解決するため、どのような行動をして行けば良いのか？」真剣に考えさせられた年でした。技術士として今までに無い、新たな課題に立ち向かってゆく必要性を感じております。

本会では会員の皆様からの投稿をお待ちしております。中大技術士会のホームページ (<http://www.chuo-u-pej.org/>)から投稿用のフォームをダウンロードしていただき、投稿してみてください。それではニュースレターをお楽しみください。

内 容	ページ
<b>巻頭言</b>	2 ページ
■ 「令和3年を迎えるにあたって」：中大技術士会 会長 内藤 堅一	2 ページ
<b>活動報告</b>	3 ページ
■ 幹事会報告	3 ページ
■ 大学支援部会活動報告	4 ページ
■ 広報部会活動報告	4 ページ
■ CO2 環境対策技術研究会活動報告	5 ページ
<b>活動計画</b>	5 ページ
■ 大学支援部会活動計画	5 ページ
■ 企画部会活動計画	5 ページ
■ CO2 環境対策技術研究会活動計画	5 ページ
<b>リレーエッセイ</b>	6 ページ
■ 「60歳を過ぎて考えたこと」：金子弘行さん（電気電子・総合技術監理部門）	6 ページ
<b>投稿エッセイ</b>	8 ページ
■ 「加齢による体力劣化は誰にも平等に来る」：大澤 勇さん（機械部門）	8 ページ
■ 「コロナ感染時期の渡航顛末記（日本⇄フィリピン）」： 藤森公彦さん（応用理学・総合技術監理部門）	9 ページ
<b>お知らせ</b>	13 ページ
■ 「ラジオ番組「技術のミカタ」に出演中」：小柳拓央さん（総合技術監理・金属）	13 ページ

### ● 「令和3年を迎えるにあたって」：中大技術士会 会長 内藤 堅一（建設部門、総合技術監理部門）

令和3年を迎えるに当たり、令和2年の総括と令和3年の抱負を申し述べたいと思います。

令和2年は、新型コロナウイルスの感染拡大で、中大技術士会としての活動は極めて限定的なものになりました。学生の授業はオンラインが中心になり、ホームカミングデーと理工白門祭は中止になりました。



1年生を対象とした「科学技術と倫理」の講座に2名、都市環境学科3年生の「キャリアデザインと倫理」の講座に13名の講師を派遣しましたが、全てオンラインで行われました。

技術士一次試験の合格者数を増やす活動を令和2年度も実施しましたが、大学1年生を対象としたオリエンテーション、2・3年生を対象とした技術士ガイダンスも全てオンラインで行われました。従来は技術士ガイダンスで、一次試験の受験票を配布すると共に模擬試験の案内を行い、一次試験の受験を勧めましたが、昨年はオンラインで受験の勧めを行い、受験票は学生個個人にWEBで入手して貰いました。このこともあって、残念ながら受験者数が激減してしまいました。

在学生の合格者数で日本一を目指しましたが、昨年は第5位という大変残念な結果に終わりました。受験者の合格率は上がったのですが、受験者数が減ったことが原因で、このような結果になったと思っています。令和3年の対応は、新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、効果的な方法を模索していきます。

令和3年がどのようになるか見通しが立ちません。2020年末になって新型コロナウイルスの感染者数が急増して第3波と言われる状況になっていますが、東京オリンピックは開催する方向ですし、ワクチンの開発と接種が始まろうとしていることから、2021年は社会が好転することを期待しています。世の中が、また中央大学がどのように展開していくのかを見極めながら、中大技術士会の活動も展開を図っていきたいと思います。

大学からの講師の派遣要請は引き続き受けていきますが、オンライン授業とリアル授業の両にらみで講師には準備をお願いします。オリエンテーションも技術士ガイダンスもリアルとオンラインのどちらでも対応できるようにしなければなりません。

もう一つ東京オリンピックに使われる新国立競技場の脇に渋谷川を再生しようという構想があります。これは2015年（平成27年）のホームカミングデーで理工学部都市環境学科の山田正教授と人間総合理工学科の石川幹子教授が対談された時に披露された構想です。2021年のオリンピック開催後になりますが、実現に向けた動きがあれば、対応していきたいと考えます。

令和3年は、在学生の技術士一次試験の合格者数、全国大学1位をもう一度目指します。在学生に対するオリエンテーション、技術士ガイダンス、模擬試験を効率的に組み立てて従来以上に充実させると共に受験者数の増加、合格率のアップに力を入れていきます。

更なる目標として昨年も申し上げましたが、一次試験合格者に中大技術士会の会員になって貰い、継続的な情報発信をして二次試験の合格者数を増やして行きたいと考えています。いずれは二次試験でも全国上位になりたいというのが長期的な目標です。

今年も中大技術士会の活動に、ご支援ご協力をいただきます様お願い致します。 以上

## ■ 幹事会活動報告

行事名	開催日程	活動概要
令和2年度 第7回幹事会 (WEB会議)	10月23日(金) 19:00~19:45	<p>(1) 各部会報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総務部会           <ul style="list-style-type: none"> <li>①10/3(土)第16回定時総会をコロナウイルス感染防止のため、WEB会議で開催。</li> </ul> </li> <li>・企画部会           <ul style="list-style-type: none"> <li>①定時総会の特別講演については、講師は都市環境学科山田教授で開催。</li> </ul> </li> <li>・広報部会           <ul style="list-style-type: none"> <li>①ニュースレターNo48は10/28までに発行。</li> <li>②ニュースレターNo49は来年1月に発行予定。巻頭言は内藤会長、リレーエッセイは金子会員。合格体験談の募集をお願いする。</li> <li>③サーバーのドメイン名を更新。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学支援部会 特になし。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> <p>(2) CO2環境対策技術研究会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①9/17(木)令和2年度第1回幹事会をWEB会議で開催。10/17(土)に第11回報告会をWEB会議で開催。講演は、大石副会長「CO2吸収材の最近の研究動向」及び大澤幹事の「地熱発電について」</li> <li>②11/19(木)令和2年度第2回幹事会をWEB会議で開催予定。来年3月頃第36回研究会を開催予定、バイオマス発電(那須、北海道別海町)が候補。</li> </ul> <p>(3) 各学科との協力事項 特になし。</p> <p>(4) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①黒澤会員の幹事就任は正式には来年度の定時総会の就任後になるが、オブザーバー幹事会に参加していただく。</li> <li>②金川顧問より11/28の開催される技術フォーラムの参加依頼があった。(講師は理工学部の石川先生で、講義内容はグリーンインフラの予定。)</li> </ul>
令和2年度 第8回幹事会 (WEB会議)	12月18日(金) 19:00~19:45	<p>(1) 各部会報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総務部会 特になし</li> <li>・企画部会 特になし</li> <li>・広報部会           <ul style="list-style-type: none"> <li>①ニュースレターNo49の原稿締め切りは12/20、発行予定は1/10。合格体験談の原稿収集の協力依頼があった。</li> <li>②来年度の中大白門祭は10/30,31の開催予定、その他理工学部の現況について説明があった。</li> </ul> </li> <li>・大学支援部会           <ul style="list-style-type: none"> <li>①10/18技術士第一次試験の合格発表があり、中央大学は残念ながら合格者数で5位となった。後退要因は申込者数の極端な減少(474名→77名)によるもので、一次試験ガイダンス及び模擬試験がWEB開催となり、受験生にPR</li> </ul> </li> </ul>

行事名	開催日程	活動概要
		<p>が行き届かなかったことも考えられる。これを反省材料として来年は対応することとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>他大学技術士会との連携等           <ul style="list-style-type: none"> <li>①令和3年1/30(土)に東京理科大学において、大学技術士会連絡協議会の定時総会を開催予定。幹事校及び事務局の交代が予定されている。</li> </ul> </li> <li>CO2環境対策技術研究会           <ul style="list-style-type: none"> <li>①10/17(土)第11回報告会をWEB会議で開催。講演は大石副会長の「CO2吸収材の研究動向について」及び大澤幹事の「地熱発電について」</li> <li>②第36回研究会は令和3年4月頃、バイオマス発電(那須)の予定。</li> </ul> </li> </ul>

#### ■ 大学支援部会活動報告

項目	内容
第一次試験合格発表	<p>12/18(金)に第一次試験の合格発表がありました。</p> <p>結果は、下記となりました。</p> <p>第1位：日本大学、第2位：佐賀大学、第3位：東京都市大学 第4位：早稲田大学、<b>第5位：中央大学</b>、第6位：岐阜高専</p> <p>中央大学は、第5位で残念な結果となりました。</p>

#### ■ 広報部会活動報告

項目	内容
サーバー運営	<p>メーリングリストのメンテナンス実施</p> <p>サーバー利用の更新手続き実施</p>
ニュースレターの発行	<p>ニュースレターvol.48作成、発行</p>
HP新規掲載	<p>①ニュースレターvol.48の掲載</p> <p>②第16回中大技術士会定時総会の様子掲載 初めてオンラインで開催しました。総会の様子と都市環境学科山田教授による特別講演を動画で観ることができます。</p>
その他	<p>HPのメンテナンス実施</p>
会員の皆様へのお願い	<p>① 就職、転勤、転職、転居等により連絡先が変更になった場合、幹事会宛てにご一報をお願いします。詳細はホームページ「入会のご案内」をご参照ください。連絡先：toiawase@chuo-u-pej.org</p> <p>② ニュースレターへの会員の皆様らの投稿をお待ちしています。 近況報告、受験体験談、2021年東京五輪への期待、何でも構いませんので、積極的な応募をお待ちします。</p> <p>③ 会員相互の交流を深めることを目的に比較的気楽に投稿できる「<u>趣味</u>」を共通テーマとしたリレーエッセイを(Vol.36)より開始しました。執筆依頼がありましたら、躊躇せずに投稿をお願いします。また、リレーエッセイの投稿をご希望の方はtoiawase@chuo-u-pej.orgまで、お知らせください。意外な繋がりが生まれるかも知れません。</p>

■ CO2 環境対策技術研究会活動報告

行事名	開催日程	活動概要
R2 第 1 回幹事会 出席者 5 名	R2 年 9 月 17 日 (木) 19:00~20:00 WEB 会議	第 11 回報告会の応募状況 第 36 回研究会の企画 深谷の渋沢栄一記念館は断念
第 11 回報告会 参加者 10 名	R2 年 10 月 17 日 (土) 14:00~16:50 WEB 会議方式	大石克喜副会長：CO2 吸収材の最新の研究動向 大沢幹事：地熱発電について
R2 第 2 回幹事会 出席者 6 名	R2 年 11 月 19 日 (木) 19:00~20:00 WEB 会議	第 11 回報告会の報告 第 36 回研究会の企画 バイオマス発電那須

活動計画

■ 大学支援部会活動計画

行事	日程	内容
大技連総会	1/30 (土)	大学技術士会連絡協議会 (大技連) の令和 2 年度総会が、1/30 (土) に計画されています。

■ 企画部会活動計画

行事	日程	内容
法曹会との交歓会	未定	今年度は中大技術士会が幹事担当であるが、新型コロナウイルス感染拡大のため、開催時期等については引き続き検討を行っていく

■ CO2 環境対策技術研究会活動計画

行事名	開催日程	活動概要
R2 第 3 回幹事会	R3 年 1 月 21 日 (木) 19:00~20:00 WEB 会議	第 36 回研究会の企画 大石副会長の研究予定について
第 36 回研究会	R3 年 4 月以降	バイオマス発電那須で企画

金子弘行さんからのリレーエッセイをお届けします。

### ■ 「60歳を過ぎて考えたこと」：金子弘行さん（電気電子・総合技術監理部門）

#### 1. 自己紹介

私は、昭和 53 年電気工学科卒業の金子と申します。副会長の小林さんと同級生というご縁で、今回投稿させていただくことになりました。よろしくお願いいたします。

さて、遠い昔の話になりますが、自分の学生時代を振り返ってみますと、あの頃はまだ学生運動の影響が残っていた時代でした。後樂園キャンパスでも、白衣をまといヘルメットをかぶり、角材を持った人達がシュプレヒコールを上げていた姿を思い出します。おかげで、一年生の学年末は、校舎がロックアウトとなり、レポート試験の提出で学年を終えました。その時に、いくらか“優”の数を稼がせていただきましたが、その後、通常の試験になってからはまったくの低空飛行で終わったような気がします。



卒業後は電気工事会社に就職し、65 歳になった現在もお世話になっています。

#### 2. 技術士受験で得たもの

平成 8 年に電気電子部門、ちょうど 10 年後の平成 18 年に総合技術監理部門を取得しました。最初の電気電子部門の筆記試験は、解答用紙が 800 字詰めのもので、午前で 5 枚、午後の回答枚数は詳しく覚えていませんが、午前以上のボリュームをひたすら書き続けた記憶があります。今、思い出だけでも手が痛くなるような試験でした。しかも、8 月下旬というのに冷房装置もない試験場です。まるでサバイバルゲームのような感覚で、汗のため解答用紙が手に張り付き閉口したことを思い出します。

何年か経ち、総合技術監理部門を受験した時は解答用紙も 600 字詰めのものとなり、なによりも択一式が取り入れられて、試験自体がソフトになった感じがしました。こちらも、体験論文が中心の回答でしたが、専門技術に加え様々な利害得失をバランスさせ（トレードオフ）全体最適を求めていくという考え方が、その後の仕事の中でも大変役に立ちました。

2 部門いずれも 3 回目の受験で、やっと合格したわけですが、決して負け惜しみではなく、雲をつかむような状況から時間をかけて核心に迫っていった経験は、その後の人生を考えてみても無駄ではなかったと感じています。

#### 3. 60歳を過ぎて考えたこと

60 歳を過ぎ、会社の中でも比較的時間に余裕のある役回りを与えられたわけですが、その時、はたと考えました。御多分に漏れず、これといった趣味らしきものを持ち合わせていません。何か始めようと思い、次の 2 つの条件に合うものを探しました。

- 1) 年齢的に最初から始めるのはハードルが高いので、過去に少しでもかじったもの。
- 2) 脳の老化防止には指先を動かすに限る。

特に 2) を重視して、ギターとプラモデルを再開することにしました。ギターについては中学生時代の通信教育に始まり、高校、大学とエレキギターをかき鳴らした経験がありましたが、とにかく両手の運動量が多いクラシックギターを選び、月に二度ほど教室に通いながら練習をしています。目標は“アルハンブラの思い出”をゆっくりでも、つかえずに弾きこなすこと。もう3年以上経過しましたが、特に右手の奏法に苦戦中で、いまだ道四分の一ぐらいのところでしょうか。60の手習いがそうスムーズにいくとも思えませんが、まずは、指先を動かし続けることが目的なので、気長に取り組んでいこうと思っています。

プラモデルについては、小学生時代、こづかいのほとんどをつぎこむほどにのめりこんでいました。当時のキットはスケール感が今一つでしたが、ギミック（仕掛け）が多く工夫され、作って遊べて、ものづくりが好きな子供にはうってつけのおもちゃでした。

今、手掛けているのは大戦中の航空機がほとんどですが、そのころに比較し、キットの精度も格段に高くなっており、また、塗装材料、技法なども進化し、あれこれ当時の資料を調べながら完成させていく楽しみは、まさに大人の趣味といってよいのではないのでしょうか。

最新作の写真を掲載しておきます。今でもギミックにはこだわりがあり、この作品も、外部にダイオードで回路を組み、プロペラを3段階の速度で回転させる、また、LEDを内部に仕込み、光ファイバーで導光し、翼端灯、編隊灯が点灯するよう手を加えています。思った通りに完成した時は、きっと半世紀前の少年の心に戻っているのかもしれない。



出口の見えないコロナ禍の中、当分、休日は家の中に引きこもり、意の如く動いてくれない指と、老眼鏡に重ねた“なんとかルーペ”の助けを借りながら小さな部品と格闘する日々が続きます。

次号のリレーエッセイは、北海道に移住された元幹事の西川さんをお願いします。

以上

今回は、本会幹事の大澤さんと顧問の藤森さんからのエッセイをお届けします。

■ 「加齢による体力劣化は誰にも平等に来る」 大澤 勇さん（機械部門）

私は争いごとが苦手な小さい頃を思い出してもけんかをした記憶があまりない。喧嘩すれば腕力、口論いずれでも負けると分っていたからである。格闘競技等を見ると、異星人を見ている様な気になる。また緊張状態で集中力を求められる個人競技は私にはとてもできないと思ってしまう。

しかし私の長く続いた唯一の趣味は競技水泳である。35歳のとき腰を痛めて入院し、そのリハビリに始めたのである。水泳教室に通い、45歳で4泳法がある程度のレベルに達したので、その後マスターズ登録をして水泳大会に出ている。マスターズ水泳大会は各地で多くの大会がある。5歳毎の年齢区分で同年代の出場メンバーが記録を競うもので、小規模な大会では優勝できる事もある。遠くハワイで開催された大会に参加した水泳教室の仲間もいた。この大会では常連の出場者も多い。そのうちの一人に1964年東京オリンピックの公式ポスターのモデルになった岩本光司氏がいる。Fig-1はそのポスターである。彼はアジア大会で銀メダル獲得など活躍するが、オリンピック出場者を決める日本選手権で僅かの差で代表入りを果たせなかった。大学卒業と共に水泳界を離れ、46歳で練習を始めたそうである。若いころ厳しい練習を積んだ彼等キャリアスイマーと、その様な経験のない私などノンキャリアスイマーとは歴然とした泳力の差がある。60歳の時、同年代なので短水路の100m個人メドレーを彼の隣で泳いだ事があった。その時は20秒ほどの大差をつけられた。もっとも彼は年齢別の世界記録をいくつか保持している程の実力者なのだが。

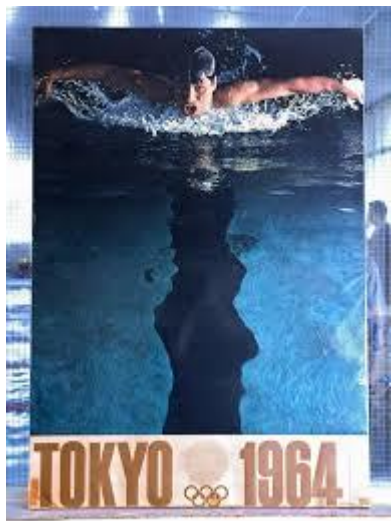


Fig-1

かれています。第一のグループはキャリアスイマーで、第二のグループはノンキャリアスイマーである。私が60歳区分の50mバタフライで4位になった事があった。

この時の1~3位は記録上接戦で、それから随分遅れた4位以下も接戦であった。私は運よく遅いグループの先頭だったという訳である。私など未熟者の甘い練習では、若い頃厳しい練習経験した同年代のキャリアスイマーの記録に並び事決してないの

またマスターズ大会とは別に、千葉県民体育大会水泳競技(2020年はコロナの為に中止)がある。これは県内30を超える市の代表が出場し競うのである。入賞者に所定の得点が付与され、その獲得点数で各市の順位が決まる。Fig-2は2019年の県民大会の上位8市である。人口100万の千葉市がやはり強い。人口17万の我が習志野市も男子が8位と健闘している。この大会の出場者の泳力は各市の代表だけにかかなり高い。出場者には国体出場者や実業団代表経験者も多く、オリンピック出場者も何年間か出場していた。この大会は一般の部と10歳毎の年齢別の部がある。この年齢の別の部出場者の実力は明確に2群に分

第69回千葉県民体育大会 水泳競技 総合成績					
男子			女子		
優勝	189点	千葉市	優勝	262点	千葉市
第2位	189点	市川市	第2位	138点	船橋市
第3位	176点	船橋市	第3位	131点	市川市
第4位	100点	柏市	第4位	84点	柏市
第5位	91点	印旛郡市	第5位	66点	市原市
第6位	51点	市原市	第6位	58点	八千代市
第7位	48点	館山市	第7位	53点	印旛郡市
第8位	44点	習志野市	第8位	37点	館山市
1,2位は、リレー得点による。(千葉市33点、市川市29点)					
千葉市は、2年ぶり18回目の優勝			千葉市は10年連続21回目の優勝		

Fig-2



である。この競技水泳も 72 歳で病気入院するまで 20 年近くも出ていたのだが、最近では県民大会の予選会を兼ねた習志野市民大会に昔からの行き掛かり上出場する程度である。普段は 40 年間通いながれた近所のスイミングクラブで体力減退を感じながら、自己に課した練習メニューに従って泳いでいる。甘い練習メニューなのだが、それでも 80 歳間近の体には辛く泳ぎをやめる誘惑にかられが、何とか続けている。先日君津市在住の同年代のキャリアースイマーに会ったが、泳ぐのがきついと言っていた。加齢による体力劣化は誰にも平等に来るのである。

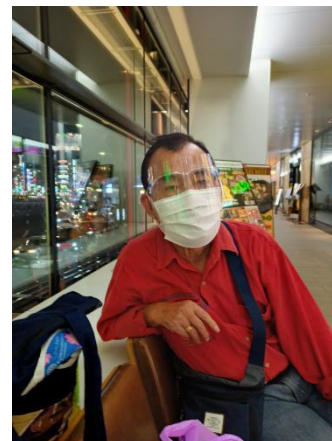
#### ■ 「コロナ感染時期の渡航顛末記（日本⇄フィリピン）」:

藤森公彦さん（応用理学・総合技術監理部門）

昨年は、コロナ感染（COVID-19）に振り回された 1 年でしたが、今年は何とか終息に向かうことを願っています。

私は、フィリピンの永住ビザを取得し、妻の実家の近くのミンダナオ島カガヤン・デ・オロの片田舎村ビガ（BIGA）海岸の別宅に約 7 年永住しております。

昨年のコロナ感染拡大時期に日本への一時帰国とフィリピンへの戻りの旅は、厳しい渡航規制の中で、わからない事だらけの余りにも大変な旅でしたので、その内容を渡航顛末記に纏めましたので一読ください。



#### 「フィリピンから日本への帰国」

私は、妻の日本永住ビザが 2020 年 5 月に切れるため、昨年 3 月日本に帰国を予定しておりました。しかし、コロナ感染拡大に伴い飛行機が国内線と国際線共に欠航となり、何度も航空券の手配をしましたが、全て欠航となり 5 月までに帰国することができず、妻は永住資格を失ってしまいました。妻のビザが失効し新たにビザの取得のために、日本に滞在している息子にビザ取得の申請を日本の入国在留管理局にお願いしましたが、いつビザが取得出来るかわからない状況でした。そんな時、事態が急変し共同通信の記事を読み、直ぐに出入国管理局ホームページの掲載内容を確認しました。その内容は、下記の通りです。

#### 「法務省、永住外国人を特例で救済 期限切れでも資格認める」

6/27(土) 16:48 配信  KYODO

「法務省は 27 日までに、新型コロナウイルス感染拡大の影響で日本に戻れなくなっている永住外国人について、再入国期限が過ぎて一度永住資格を失った場合でも、特例的に通常の審査なしで永住資格を認めることを決めた。感染症の世界的な流行で多くの人々が海外に足止めされていることを受けた臨時措置。29 日から実施する。永住資格は日本に原則 10 年住んでいることなどが要件で国内活動が制限されない。最長 5 年有効の再入国許可が取得可能で、さらに 1 年以内なら許可なしに出入国できるが、期間内に再入国しなければ失効する。失効すると、別の在留資格で入国した上で、改めて永住資格を申請する必要がある」。

#### 「出入国在留管理庁からのお知らせ」

「新しいコロナウイルスへの対策で、日本に入ることができない人のために、在留資格認定証明書（Certificate of Eligibility）の有効期限について、特別なルール在留資格認定証明書（Certificate of Eligibility）に書いてある日から、3 か月が過ぎる前に、査証（ビザ visa）をもらって、日本に入ります。→ 在留資格認定証明書（Certificate of Eligibility）に書いてある日から、6 か月が過ぎる日まで、使うことができるようになります。★査証ビザ（visa）は、大使館や領事館で、もら

います。」

早速、在ダバオ領事館に連絡し、在留資格認定証明書の申請を依頼しましたところ、査証申請書類は、顔写真、旅券写し、従前の在留カードコピー、申請人の申立書、説明書等をメールにて領事館に送付することになりました。その後、在フィリピン日本大使館、日本外務省とのやり取りがあったようで時間かかり、7月末に提出してから約1か月の8月末に査証がおりました。しかし、査証の受け取りは、本人の旅券に査証を添付する必要があるため、ダバオ領事館まで出向くことになりました。ところが、私の住んでいるミンダナオ島北海岸のピガ（BIGA）からミンダナオ島東南海岸のダバオ市までは約360 kmあり、飛行機、バスも全て欠航している状況でした。仕方がないので運転手付きレンタカーを借りて、険しい山道を片道約8時間の長い道のりですが、親戚の人と共に行くことになりました。また、ダバオ市までは、ロックダウンの為、**役場の外出許可証、警察の通行許可証、保健所の健康許可証の3種類の書類**を取得しないと通行出来ない状況であり、許可証を取得するのに1週間ほどの時間がかかりました。

ダバオ市への出発は9月8日の午後7時で夜中走り、ダバオ市に入る前に検問所があり軍隊が書類審査、人物確認を行い無事通過する事ができました。ダバオ市の親戚の家には、朝4時に着き、一休みしてからダバオ領事館に行き、手続きを無事完了しました。領事館の人は、沢山の人が手続き等に来ていましたが親切に対応してくれました。自宅のピガへの帰りは、ダバオ市を午後4時ごろに出発して途中、休憩しながらゆっくり走りましたので自宅に着いたのが次の日の朝7時でした。

さて、次が日本への帰国ですが、一番重要なことはPCR検査を受けてから**72時間以内**にフィリピンを出発しなければならない条件でした。私の住んでいるミンダナオ島では、国内線で首都マニラの空港に行き、国際空港から国際線で日本に出発しなければなりません。

私の住んでいる所では、大きな町の病院でPCR検査を受けたとしても結果がでるまでに3日間以上はかかり72時間は過ぎてしまいます。

従って、国内線で首都マニラに行って宿泊し、マニラの病院でPCR検査を受ける必要があります。マニラの病院と宿泊先を探すのは一苦労しました。色々情報を集め、探していると丁度良い所が見つかりました。マニラ国際空港第3ターミナル内のカプセルホテル（The Wings）でPCR検査を受ける機関（PHILIPPINE AIRPORT DIAGNOSTIC LABORATORY）も紹介され、検査結果も1日でわかるとのことでした。

また、自宅のピガからカガヤン空港経由し首都マニラ空港から日本の成田国際空港までの移動に必要な書類として、役場の外出許可証、警察の移動許可証、保健所の健康許可証の3種類の書類取得であり、許可証を取得するのに今度は3日間で取得出来ました。

従って帰国スケジュールは、9月24日ミンダナオ島カガヤン空港からマニラ空港、空港のカプセルホテルの二人部屋に宿泊、その日にPCR検査を行い、次の日の夕方に陰性結果を受け取ることができました。

日本への出発は、9月27日（土）に全日空にて9時30分マニラ国際空港発で成田国際空港着が午後3時30分となりました。飛行機内は、座席の半分程度の乗客で、その内の半分は日本経由でアメリカに行く海外フィリピン労働者（OFW）でした。予定通り、成田国際空港到着し、飛行機からは乗り継ぎの人が最初に降り、その次に降りて機内で渡された書類に記入、PCR検査場で書類の確認審査を行いました。PCR検査場に入り唾液検査を行い、検査結果がでるまで約1時間半かかり、結果は陰性でした。その後入国審査場に行き、私の入国審査が済み次第、妻と共に別

室の出入国在留管理事務所で妻の在留カードの発行手続きを受けました。後は預けた荷物を受け取り、親戚の人が待っている車に乗り、自宅に帰宅したのが午後 8 時ぐらいでした。無事日本に帰国して、それから 14 日間自宅待機が始まり、地元の保健所にメールで毎体温を報告しました。

余談ですが、受け取った在留カードの名前が間違っているアクシデントが起きたため、東京出入国管理局へ行き、在留カードを書き換えることになりました。

日本に帰国するまで、3 月下旬予定が 9 月下旬となり、5 か月間かかりました。



DEPARTURES						
Flight	Destination	STD	ETD	CTR	Gate	Status
Z2 428	PUERTO PRINCE...	5:35		E16-29	134	CHECK-IN OPEN
D3 624	CAJAYAN	6:35		D01-15	134A	CHECK-IN OPEN
SJ 771	PAGADIAN	7:00		D01-15	114	
NH 820	NARITA	9:30		E16-29	132	
D3 881	CAGAYAN DE ORO	10:05		D01-15	134A	
DG 8111	NAGA	10:40		E16-29	131	
Z2 775	CEBU	10:55		E01-09	132	
Z2 309	ILOILO	11:15		D01-15	120	
SJ 783	DIPLOLO	12:10		D01-15	118	
SJ 377	CAGAYAN DE ORO	12:20		D01-15	118	
AK 583	KUALA LUMPUR	13:15		E01-09	113	
SQ 917	SINGAPORE	14:15		D01-15	120	
SJ 589	CEBU	14:20		D01-15	119	
SJ 789	BUTUAN	14:40		D01-15	118	
SJ 653	TACLOBAN	15:50		A16-29	110	
EK 333	DUBAI	18:15		E01-09	109	
QR 933	DOHA	18:35		D16-29	107	
SJ 018	DUBAI	19:40		B23-29	111	
KL 876	AMSTERDAM	20:05		E01-09	109	
QR 929	DOHA	23:40				

「マニラ出発便カウンターは普段より大変人が少ない」「この日1日の出発便は20便だけでした」

### 「日本からフィリピンに戻る」

日本に帰国後は、病院での検査診察等や田舎の実家の用事を済ませて、約 2 か月後にフィリピンに戻ることになりました。日本から出国する時は、普段通りの出国方法でした。しかし、入国する国により手続き、許可内容は様々で、フィリピン入国の場合は、フィリピン赤十字にメールにて事前登録手続きが必要でした。私の搭乗するセブパシフィック航空からの案内は、下記の通りです。

#### 「セブパシフィック航空からの案内」

「ドバイ、大阪、東京（成田）、シンガポールからマニラへご旅行されるお客様は以下の条件を満たす必要があります。

フィリピン政府に定まれた旅行規制に基づき、フィリピンに到着したお客様は空港にて RT-PCR 検査を受けることが義務付けられています。

「出国前に **電子健康調査書(e-CIF)** (<https://e-cif.redcross.org.ph/>)に事前登録し、パスポートの写真ページをサイトにアップロードする必要があります。申請されましたら、生成された QR コードの印刷もしくは保存をしてください。メール(<https://bit.ly/CEBrequest>)にて、渡航のために必要である、ご連絡先および、現地での滞在住所を送信してください。リンク先で「Travel Requirements」を選択してください。マニラでの宿泊を事前に予約し、RT-PCR 検査結果のお知らせを待つとともに、自己隔離を行う必要があります。」

以上の案内に基づき、フライト予約をして、出国前にフィリピン赤十字の 電子健康調査書 (e-CIF)に事前登録しました。

11月25日（水）成田国際空港発午後4時20分発のセブパシフィック航空に搭乗し、午後8時30分にマニラ国際空港に到着しました。乗客は座席の3分の2程度で機内の前の席から順番に降りて、空港内の RT-PCR 検査場に向かいました。検査場では、機内で配布された用紙に記入し書類の確認後、30分ほど検査の順番待ち、検査室にて唾液と鼻の粘膜を採取されて終了しました。その後、入国審査場にて入国審査を受け、荷物を受け取りました。

事前にホテルは、予約していたのでホテルの車が空港に迎えに来ており、その車でホテルに向

かい、ホテルに着いたのが午後10時でした。

ホテルでは、RT-PCR 検査結果の知らせを待つまで自己隔離であり、ホテルの食事は廊下のドアに置き、受け取る方法を取っていました。

RT-PCR 検査結果は、11月27日に陰性との結果がでましたので、11月28日のマニラ空港からカガヤン空港へのフライト予約をして、ビガの役場にカガヤン空港到着時間を連絡しました。11月28日(土)11時マニラ空港をセブパシフィック航空で出発し、12時にカガヤン空港に到着しました。空港では、荷物を受け取り、書類を確認された後、ビガからの救急車が待機しており乗客が5名ほど乗車していました。



TIME	WILL	TO/VIA	AIRLINE	FLIGHT	CHK IN
13:15	CANCEL	CLARK	Philippines	5J6069	R
13:45	CANCEL	SHANGHAI	airasia	H01380	
15:25	CANCEL	HONG KONG	Philippines	U0849	F
16:20		MANILA	Philippines	5J6055	R
17:45		JAKARTA	JAL	JL729	LMO
				GA9151	
17:50		HO CHIMINH	JAL	JL759	LMO
			MIAT	OM7113	
18:25	18:15	DALLAS FORT WORTH	Philippines	AM60	D
			JAL	JL7012	
19:00	CANCEL	SEOUL	EASTARJET	ZE604	S
19:55	CANCEL	HONOLULU	hawaiianair	HAR22	A
			JAL	JL6406	
				TK9146	
20:55	CANCEL	MANILA	Philippines	5J6057	R
21:45	CANCEL	SHANGHAI	airasia	H01400	
22:30		DUBAI	Emirates	EK319	I
22:35	22:10	DOHA	JAL	JL5095	
				QR807	J

「成田国際空港第二ターミナル出発ロビーの様子、「今日1日のフライトは13便だけです」ほとんど乗客の姿がなく、警察官が見回りしている。」



「マニラ空港近くのマカティ地区のホテル」 「カガヤン空港での書類の確認審査風景」

その救急車に乗せられて約1時間半の道程をビガの自宅まで運ばれました。自宅ではビガの保健所の方が待機しており体温を測り、これから14日間自宅隔離待機する方法の説明を受けました。14日間の食事は妻が作り、材料の買い出しは使用人が行いました。時々、ビガの保健所の方や警察の方が様子を見に来ました。(普通、自宅での自己隔離はできなく、公共施設に隔離されるようですが、事前に保健所等が自宅を訪問し調査したところ、敷地が広く住んでいる人が数人と少なく、環境衛生面が良いことから許可されたとのことです。)12月12日(土)に何もなく無事に14日間の自宅での自己隔離から解放されました。日本出発から21日間で自由の身になりました。(普通では、日本を昼1時位に出発すれば、フィリピンの自宅には夜8時位には着きます。)

以上がフィリピンから日本への帰国とフィリピンへの戻りの行動ですが、一番大変でしたのが正確な情報の把握でした。内容が良く変わるので、何が本当かわからない状況で、担当部署に聞いても情報が一元化していないため、人により話す内容が違ふことと、日本の省庁間の考え方の

違いや情報のズレと遅れが起きていることを痛感しました。

その中で、一番信頼できるのは、実際に経験した人の言葉などでした。実際に体験しないとわからないことが多いです。

最後に、この様な混乱状況でコロナ対応に追われて忙しい中、在ダバオ領事館の担当者には、何もわからない我々のために、何度も情報や連絡し、指導していただき感謝しております。

フィリピン国ミンダナオ島ビガ海岸にて

藤森 公彦

## お知らせ

小柳 拓央さんからお知らせをお届けします。

### ■ ラジオ番組「技術のミカタ」に出演中 小柳拓央さん（総合技術監理 金属部門）

コロナ禍という非常事態の最中、技術士として何かできることはないかと考えていた時、ご縁あってラジオ出演の依頼を頂きました。

当初、ゲストで出演したものの、それが好評で日本技術士会の技術士金属部門 Yes-Metals の有志2人と共に、回数限定で番組を持つに至りました。

公共放送の八王子 FM Tokyo Star Radio シュークニヒロのワールドソングコミュニティという番組内でコーナー番組「技術のミカタ」をやらせていただいております。

これは、国家資格である技術士の認知度を向上させることを目的とした広報番組です。

既に1月15日（金）に第一回を放送し、以後、隔週で計6回の放送を予定しています。

第二回は、1月29日（金）21:00～、以後、（2月12日、26日、3月12日、26日）

八王子 FM は、地域 FM 放送であるものの、エリア人口110万人規模の公共放送 FM です。

エリア外の方は、スマホのアプリのリスラジでも視聴可能です。

皆様、是非ご試聴いただき、ご意見・感想・ご批判を頂きますようお願いいたします。

宣伝になってしまいますが、番組のツイッターのQRコード、リスラジのQRコードPC版をお知らせいたします。



図1. 技術のミカタ  
ツイッターQR



図2. リスラジ  
アプリのQRコード



写真1. ラジオ出演の3名（左が小柳）

ニュースレターへのご意見、ご感想をお待ちしています。 ⇒ [toiawase@chuo-u-pej.org](mailto:toiawase@chuo-u-pej.org)

2021年1月号 中大技術士会 広報部会 発行